

令和7年度 第1回学校運営協議会 報告

1 日時

令和7年4月24日（木）午後1時30分から3時30分まで

2 会場

浜松東高校第一応接室

3 出席者

(1) 委員

清水猶（浜松市民生委員児童委員協議会旧東区顧問）

山下智之（浜松市内協働センター講座講師）

高木邦子（静岡文化芸術大学教授）

江間正章（㈱江間種苗園代表取締役）

堤千秋（静岡県立浜松東高等学校同窓会役員（会計））

村松将子（静岡県立浜松東高等学校 PTA 副会長）

(2) 学校関係

鈴木真一(校長)、坪井保人（副校長）、近藤好正(教頭)、澤木孝(事務長)、

山崎大介（教務主任）、井口仁美（生徒指導主事）、内田朱美（進路指導主事）、

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 自己紹介

(3) 校内見学（授業見学）

(4) 学校運営協議会委員委嘱及び依頼事項の説明

(5) 令和6年度学校関係者評価についての説明

(6) 令和7年度学校経営計画についての説明

(7) 学校の現状報告及び質疑応答 教務課・生徒課・進路指導課

(8) 意見交換

(9) その他連絡事項

5 学校現状報告の質疑応答内容

(1) 生徒課

<本校> 女子の髪型（おだんご）を試行していく。

<委員> そもそもおだんごはなぜダメなのか。

<本校> まとめた髪の中が金髪であったという事例を聞いている。試験の面接にその髪型で臨むのかという視点もある。

(2) 進路指導課

<委員> インターンシップはやっているか。

<本校> 3年の商業科で実施している。2年生の希望者も実施。

<委員>推薦入試、一般入試を受験する比率はどのくらいか。

<本校>ほとんどが推薦。

<委員>一般選抜の生徒の人数はどれくらいで、どのような手当てを実施しているか。

<本校>10人程度。補講を実施している。

6 意見交換の内容

(1) 授業を見学したところ、雰囲気良く、話をしっかり聞いている様子がうかがえた。しかし、主体的な学びが生まれているかは疑問。校長先生からの学校経営計画書の説明の中で、「共通言語」としたいという点印象的であった。また、教室のプロジェクトの画面が見にくかった。

(2) 授業を見学したところ、全体的に静かな印象を受けた。一生懸命取り組んでいる。しかし、積極性に欠ける部分が見られ、意見のやり取りが欲しいと感じた。世界遺産の授業など、生徒に興味関心を持たせる取組が見られた。4月の段階での欠席者が多いのが気になった。

(3) 先生方が生き生きとしている様子が良かった。家庭総合の授業では身近な話題が取り上げられていて良かった。年度当初であるため、クラスの生徒同士の人間関係が構築されていないだろうから、夏ごろにはもっと活発になっていこう、各クラスに毛筆で目標が掲示されていたり、廊下に書道や美術作品が展示されていたりする点が良かった。

学校経営計画にあるキャリア教育について、「進路学習の充実」の項目は、キャリアラニング能力の育成につながっているように感じる。キャリア教育は日々のすべての教育活動で行われるもので、その視点を持っていることが大切。

(4) インプットは学校でなくともできるが、アウトプットは、教員や生徒との関わり合いの中で行われることで効果が発揮されることから、学校の必要性がある。県全体でもそのような視点を持ってほしい。

(5) 欠席者が多く、対応に苦慮されていることが分かった。

(6) ソフトウェア活用の授業など、自分が高校生の時には学んだことがない授業があり、時代に合った教育が展開されていることがすばらしい。文化祭などの活動を使い、生徒が考える機会を創出してほしい。ホームページやインスタをよく見ているが、生徒の活動の様子がわかりやすく発信されている。PTA 活動の発信も考えていきたい。